

【第6回みんなのなかしべつプロジェクト会議 開催報告】

◇日 時：平成31年1月17日（木） 19：00～21：00

◇場 所：中標津町役場3階 301会議室

◇出席者：16名

○2年間振り返っての感想

1年かけて活動した計根別のかぼちゃランタンづくりについては、農業高校さんや地域の皆さん、みんなかメンバーなどのご協力を得ながら無事に活動を終えることができた。また町のイベントとして継続して欲しいとの声をいただいたので、今年度の反省点なども踏まえて、より良いものとしてスタートしていければと思っている。2月に作戦会議を予定している。まだかぼちゃを作る余力があると感じたので、今後は地元の商店などをお願いして飾りつけコンテストや、フォトコンテストなどはいかがでしょうかという案もあったので、さらにパワーアップできればと思っている。

景観学習ということで子どもに景観が浸透してきているので、この活動は続けていかなければいけないと思っている。

今後、人が作ったもの、例えば空き家や耕地防風林などを含めて、残すのか、無くすのかという部分がこれから非常に問題になっていくのかなと思う。

こういう町並みにしたいという思いがあると思うが、その目標が5年10年ではなく、30年50年100年というもっと長いスパンで考え、その中の始めの5年間というように、もっと気長に、細くでもいいので続けていける組織を作り上げられたらいいのかなと思う。

建設業協会の立場で参加しているが、建設業協会として事業に参加するとなると、今後は何かこういうことをやりたいので、協会として協力してほしいと言えるような計画など、具体的な案をそろそろ出していく必要があると思っている。

今までの活動で、自分なりに防風林の今までに作ってきた経緯や、これからどう残していきたいかということ、なんとなく感じるができたと思う。これからみんなの共通の価値観として、宇宙からでも見える風景を残していきたいという思いをもっと広げてもらって、そのためには少しずつ何ができるのかということ、をうまく組み立てて見せることができれば、1歩前に進むことができると思う。

今年度のかぼちゃランタンについては、計根別学園としてはあまり関わることはできなかったということで、時間などが厳しいところもあるが、PTA役員の一人としてうまく一緒にやっていたらと思う。

今年度農業高校としてかぼちゃランタンづくりに関わらせていただいて、生徒たちが生き生きとして活動させてもらった1年間だった。今日が東北北海道の農業高校生発表会だったが、2位だった。審査員からも地域の人たちが協力してやるプロジェクトというのはなかなかないし、それは今から凄く重要だという話をいただいて、審査員の中でも評価が高い活動になっていたと思う。そこがプロジェクトの強みだと感じた。プロジェクトを進める中でも、生徒たちが言うことに対して、何も否定することなくやらせてもらったことに対して生徒たちも喜んでいて、大人とこんなに対等にやらせていただいて嬉しかったと話をしていた。次年度以降は生徒たちももっと関わっていききたいと話していた。他の学校でQRコードを使ってアピールをしようという発表があり、うちでも例えばかぼちゃの播種したところ動画で撮り、定植のときにその動画をQRコードで見られるようにして、ポスターにつけるなどの案が出ていたので、来年度以降もまた関わらせていただければと思います。

景観学習について今年は3つの学校で開催して、かなり浸透してきている。共通の価値観を養い、地域を支える活動として今後も続けていきたい。

沿道景観調査について、13年前にやった地域資源景観調査でも写真を撮ったが、あの時は素人による撮影で、自分自身も方法の開発をしていなかったが、今回の調査では重厚な資料を作ることができた。残すものと残さないものを峻別していく時に大切な資料となる。喫緊の課題としては携帯電話基地局やソーラーパネルなどをどうしていくか、地域景観とうまく共存できるかという判断の基準となる資料作成のいい仕事になったと思う。景観整備機構として続けていければと思う。

プレ準備会ときにはうまく言葉にできなかったが、両農協や商工会などの団体に対しては、景観法という景観協議会があるので、そういう枠として考え、景観整備機構はもっとフットワークのいい組織として考えていければと思う。

格子状防風林は、直線的だということ自体が非常にユニークであるということを最近発見した。ケプロンばかりと私も思っていたが、あくまでも正方形に区画するという話がそうであって、それを防風林として壮大な規模でやったということは非常に日本的だと思った。この風景を眺めながらいまだに大きな発見がある。

かぼちゃランタンなどを見ると、若い人のパワーも漲っているように思うので、5、6年経ったらすごくなっていると思う。何かが動き始めているという熱を感じ始めているので期待している。

今はまだ通過点でしかないが、今らしいものを作っていき形を作っていくものだと思う。東小学校でファシリテーションの時間があつたのだが、そこで中標津町の凄いところを発表してもらいました。そこで今年景観学習を行ったクラスでは、担任の先生が格子状防風林と言っていた。他の先生方も色々と絵に描いたり宇宙から見える万里の長城と格子状防風林を説明するなど、普通に話しに出してきている。学習した学園だけでなく、他の先生や子どもに伝わっているんだなと思いました。

子育てや介護は、その時には一生懸命やるが、その時期が過ぎたら距離を置いたりするのがありがちだと思うが、景観は生涯現役で携わっていける。大人から子どもまでずっと興味をもって、未来に受け継いでいけるようにしていければいい。

○伝成館及び圃場の保存・活用について：具体的にはなにも決まっていないが、老朽化が進む伝成館の保存・活用について考えたい。

- ・元々の名前が根室支場だったということの意味を考えてほしい。根室支場という名で国の機関としてやっていた時代では地域の心の支えであり、あの建物を見て帯広のような町になると信じていた。根室支場があったから釧路支場と合わせての根釧、という位置づけであるということを理解していくと重さが出てくる。
- ・あの場所は病院は近いので住民が暮らしやすいという観点では住宅地としてちょうどいい場所だと思う。
- ・伝成館のところは交通アクセスが悪いので、土地を利用するのであればしっかり考える必要がある。
- ・建物自体は中標津町の建築や建設業者のお師匠さんが建てたもので、残すのはとても意味のあることだと思うが、活用するのであればもっと考えなければならない。
- ・この地域の開拓の歴史や文化を語る上では、振り返れば集団入植で武佐や開陽が出来たわけで、農業試験場が出来たからということが全てではない。全体像を見る。
- ・第6期総合発展計画の時点で郷土館が老朽化しているので今後の方向性を考えようといいつつ、次の計画が始まる段階にきているが動いていない状況。
- ・郷土館分館については秋にオータムフェスタというイベントを開き、1日で1年分の来場者が来た。当日の演奏者の方に話を聞いたが、森林公園内に郷土館分館があるということを知らなかった、なぜこんなにわかりづらく、道路から見えないところにあるのかと言っていた。そのような状態にあるので、元の伝成館の場所にあったほうがもっと見てもらえると思う。
- ・伝成館や分館は若いこの町ですごく大切な建物だと思う。収蔵庫もだんだんと使えなくなってきた、伝成館に場所をお借りしているので、今の郷土館や収蔵庫に置けないものもあるので、なんとかしてほしいという気持ちがある。
- ・先ほどの住宅地の話というのは非常に大切な話で、それだけの経済効果を生み出すことが出来る場所を、どうやって史跡にしようとするのかという説得力がないと難しい。
- ・あの圃場は、開拓の殖民区画が反映されている規模を、市街地で唯一視認・体験できる場所であり、伝成館を残して、種苗倉庫を残して、白樺並木を残してとパーツだけ残しても、大きなところにあるから意味があるんだということが伝わらなくなり、歴史的な遺産としては分散の方向に行ってしまう。住宅地の魅力に優る魅力的なプログラムを作らなくてはいけない。道東の心の支えとして作られたということを全面的に押し出していくといいと思う。
- ・周りを囲んでいる土塁は、この地域で一番古い土木事業。南側の土塁は意識的に昔の地形を残している。地質自体も弄っていないので、太古の地質がそのまま残っている。植えてある木も元の木をできるだけ残すようにして植えてある。

○ヒアリングについて：役場の事業として行う場合に行くべき団体はどこか。

- ・景観計画策定の際にもヒアリングを実施したが、行けなかった場所もある。
- ・行ける団体数としては、先方の都合にもよるが1～2日の中で5団体となる。
- ・1度も行ったことのない団体に行きたい。1度行ったところは、なんだかんだ個人としてなどで会議に来ていただいたりもしている。
- ・候補に名前の挙がっている町P連は、中標津町PTA連合会だが、子ども達との係わり合いという点では、すぐにヒアリングではなく、時間をかけて話していくのがいいと思う。
- ・農業高校については、今回のかぼちゃ以外にも様々なプロジェクトをやっている。特に花のプロジェクトでは地域の花壇整備などもしている。全部で9プロジェクトある。
- ・ヒアリングはそれぞれのトップではなく、実務担当者に聞いたほうがいいが、事前にトップに話を通して必要がある。また、団体によってはトップにヒアリングを取ったほうがいい。
- ・中標津町の景観を守っていくにあたり、河畔林を大切にという観点では、漁業組合にヒアリングしてみてもいいだろう。
- ・漁業組合には文化的景観調査の際にヒアリングを行ったが、10年ぶりになるのでぜひヒアリングを行いたい。
- ・ヒアリング先の案については、「(財)中標津町文化スポーツ振興財団」、「中標津町社会福祉協議会」、「(株)中標津都市施設管理センター」、「北海道中標津農業高等学校」、「標津漁業協同組合」の5団体にしたい。
- ・ヒアリング実施日は2月13～14日、もしくは2月21～22日など。ヒアリング先との調整による。